

2013 地籍シンポジウム in 中部 レポート

平成25年7月31日(水) ウィンクあいち 2階大ホールにて2013地籍シンポジウムが開催されました。まず、受付会場のホワイエには中部地籍研究会によるパネル展示会も同時に開かれており、多数の貴重な資料も展示されておりました。各地方における和紙公図、地券等が展示され思わず足を止めて見入ってしまいました。改めて各地方において相違する公図等の歴史を感じました。



愛知会 福永正光研究員



福井会 青山勉研究員

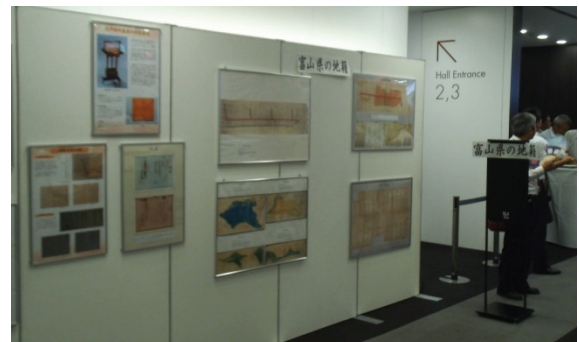
そして大ホールにおいて第一部の「地域での異なる公図の成り立ち」と題を打つ中部地籍研究会による研究発表が行われました。愛知会より福永正光研究員が愛知県・三重県・岐阜県、福井会より青山勉研究員が福井県・石川県・富山県について其々公図の作成過程、地域において相違する公図の特徴をなど、貴重な資料を舞台のスクリーンに映しながら説明していただきました。



第2部 パネルディスカッション

続いて第2部においてテーマ:すべての始まりは「境界」とし、コーディネーターを日調連 筆界特定推進委員長 西田寛氏またパネラーを駿河台大学法科大学院教授・弁護士 寶金敏明先生、愛知県建設部用地課長補佐 都築浩氏、三井不動産リアルティ株式会社 天野英太郎氏、そして日調連 常任理事 小野伸秋氏の4名にて構成し、学・官・民其々の立場における境界に関する諸問題についてパネルディスカッションが行われました。日常業務において遭遇するであろう事例をあげ、討論が展開され時間を忘れ話に聞き入ることができました。

ホワイエでの展示をはじめ、1部、2部共に大変充実したシンポジウムでした。



ホワイエでの展示

(広報部長 本間秀樹)